


# ともに



平成 30 年 2 月 13 日発行 《文責》 校長:濱崎 豊治 副校長:北村征一郎

## 「善行紹介」 さすが観瀾っ子

先日、年配の男性から観瀾校に次のような匿名の電話がありました。

『2月2日(金)に芦刈町三王崎の交差点で、赤信号であるにもかかわらず横断歩道を乳母車を引いて渡ろうとしていたおばあさんに気づいた。「危ない!」と思った瞬間、偶然その場に居合わせた観瀾校の男子児童が、おばあさんをしっかりと引き戻して助けてくれた。その子は、青信号になって安全を確認してから、やさしくおばあさんの手を引いて一緒に横断歩道を渡ってくれていた。子どもの行為にとっても感動したので電話しました。』とのこと。みんなのエールになるととても嬉しい電話でした。また、子どもの言動に関心を持って見守っていただいていること、ほめていただけることに対して、人としての温かなつながりを感じて嬉しい気持ちにもなりました。これからも児童生徒の善い行いを紹介していきたいと思えますので、いつでも遠慮なく学校までお知らせください。



## ほめて育てる子どもの成長

人は誰でもほめられると嬉しいものです。大人でもそうですが、子どもにとってもよき習慣になる、自信になる、他のことにもよい影響を与える等、人間形成上のよい効果があることはよく知られていることです。しかし、我々大人は、日々の忙しさや余裕のなさから、もしかすると子どもをほめることについて、少しおっくうになってしまっていることがあるかも知れません。また、「ほめる」ことよりも「しかる」ことの方がついつい多くなってしまっているかもしれません。御家庭ではいかがでしょうか?

「子どものよい行為を見つけてほめてみよう」と意識するだけでも、ほめることが増え、その子どもがさらに成長していくことにつながります。一人ひとりの子どもが、がんばっていたり、よい行為をしたりした時には、我々大人がその行為のよさを積極的に伝え、心を込めてほめていきたいですね。その際、次の4つのポイントを大切にしてい

めていきましょう。

- ①その場ですぐにほめる ②アイコンタクトをしながらほめる ③具体的にほめる
- ④低学年はできるだけスキンシップをしながらほめる

しかし、子どもは、まだまだ発育途上ですので当然、大人が注意をしなければならない場面もあり、してはいけないことをした時は、大人が毅然としかることもとても大切です。学校でも家庭でも地域でも、子どもの可能性を見つけ育てていくために、注意すべきはきちんと指導しながらも、よい行為や努力を積極的にみとり「ともにほめて育てること」を改めて大切にしていきたいと思います。



## 「第3回学校評議員会」を開催しました

観瀾校の本年度の学校運営等について御意見・御助言をいただくため、9日(金)に今年度最後となる学校評議員会を開催しました。学校評議員の皆様には、御忙しい中に御出席いただきありがとうございます。以下の御意見等をいただきましたので、次年度に向けて生かしてまいりたいと思います。

<内容>

- ・ 県学習状況調査(12月調査)の結果について
- ・ いじめ防止基本方針等について
- ・ 学校評価の結果について
- ・ 学校行事について
- ・ 意見交換等

<御意見・感想等>

- 大変な努力とわかりやすい丁寧な資料による説明に感謝している。学校評価の結果を踏まえた今後の対策・対応がとても重要なので、全職員でしっかり共通理解して進めてほしい。
- 子どもにトラブルはつきものである。トラブルをチャンスにして子どもを育てることが大切。
- 気になる子どもや家庭ほど、日頃から地道にかかわっていききたい。こちらから気をかけ、声をかけ、支える、みんなのための温かい地域でありたい。
- 家庭学習は、親の責任においてなされるものであり、日頃の親の姿勢がとても大切。学校と家庭が両輪となってこそ子どもは健全に育つ。
- 学力のみならず、観瀾校のすばらしい環境はもっとアピールできると思う。このまま引き続き、今のよい状態を保ってほしい。



## インフルエンザ情報⑤(本日現在)

- 小学部 …… 2名(2年生2名B型)
- 中学部 …… なし

